

令和元年度 富山市民 感謝と誓いの つどい

とき 令和元年8月1日(木) 午後1時30分
ところ 富山国際会議場 メインホール

主催/富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市

富山市自治振興連絡協議会
富山市老人クラブ連合会
富山市母親クラブ連絡協議会
富山市中学校長会

富山市社会福祉協議会
富山市民生委員児童委員協議会
富山市PTA連絡協議会

富山市遺族会
富山市児童クラブ連絡協議会
富山市小学校長会

三・四年生の部

小学生絵画最優秀賞



「富山名物ブラックラーメン」
富山市立蛸川小学校3年 寺西 洗香さんの作品

三・四年生の部

小学生絵画優秀賞



「どんな人も楽しめる富山市」
富山市立東部小学校4年 岡本 紗和さんの作品

三・四年生の部



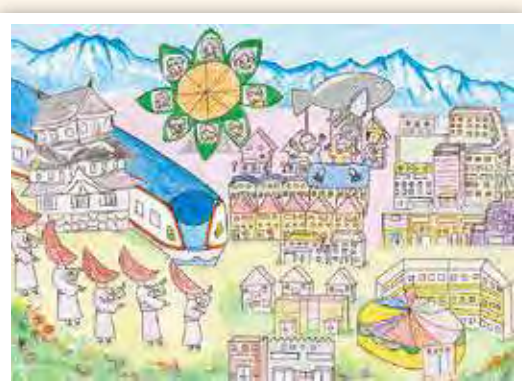
「スタンドグラス水族館」
富山市立神明小学校3年 高橋 奈々花さんの作品

五・六年生の部



「ホタルイカの願い」
富山市立蛸川南小学校6年 稲本 ひなたさんの作品

五・六年生の部



「光り輝く自慢の富山市」
富山市立桜谷小学校6年 島田 結生さんの作品

五・六年生の部



「カラフル富山」
富山市立神明小学校6年 稲垣 翔斗さんの作品

富山市のあゆみ展

■日時・場所
7月30日(火) 午前11時～午後6時
7月31日(水) 午前9時～午後6時
8月1日(木) 午前9時～午後4時
富山国際会議場 1F交流ギャラリー

■内容
富山市の歴史の紹介や、市民生活の変遷を写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山市」も展示します。

忘れえぬ心のもしび

富山市上飯野新町 大畑 クニ子

当時十二歳の私は、赤江川を挟んで東側綾田町、西側稲荷町という当時七丁目(現三丁目)に住んでいました。洗濯機の無い時代ですから朝早く起きて七～八米位下に流れている赤江川へ降りて洗濯に行つたものです。

昭和二十年八月一日、富山市大空襲のあの美しい夜空に展開されたB29の襲撃の素晴らしい光景、まるで花火大会のように彩られたきれいさは、七十数年経つても鮮明に記憶に焼きついて離れません。

小学校六年で卒業、四月から旧制の女学校一年に進んだ今という新制中学一年の夏の夜空、空襲警報で巨防空壕に入ったが、直ぐ出るような指示が流れてきたので、当時、不二越は安泰と聞いていたことから、不二越病院(現在の県立中央病院)の北側に流れている赤江川の土手伝いから中央病院の北側の田畑へと逃げました。

当時、四十五才以上の男性招集制度で父は鹿兒島の戦場の方に居て、母が私と弟三人を守ってくれていました。

その母が、当時三才の弟を背にかつぎ、当時八才の弟の手を引きながら、私は、頭に防空頭巾をかぶり、冬の綿布団を背中にかぶり当時十才の弟の手を引きながら、母を元気付けつつ、暗い中離れないように、

逃げながら天空を見上げつつB29の動きに注意する。目は離されません。

アッ！弾が落とされた！だったら慣性の法則から斜めのこちらの方向に逃げればいい！と慣性なんて落ち着いた考えをひき出せる余裕があったのか、と思う位、今でも不思議なのですが、弾が落とされる時の空の瞬間の光、輝き、美しさを親子で、あ！又落ちた！と云いながら、そんな逃げ方をしていました。

県中央病院の近くの長江地区に、母の実家があり、そこへ時、逃げ込みました。

明けて八月二日の朝、空襲は終つて富山市内一面焼野原なのに、学校へ行かねばと、全焼された焼け跡の八人町から荒町へと、あの大通りを通つた時、え！人が！生きた人ではない！道路の両サイドにまつ黒焦げた人体が、実に太い大木の黒炭の焼き殻と同じような状態、フワフワとした鱗状を呈して太陽に照りつけられてる人体が、ズラッと並び転がっていた様は、未だ脳裏から消えません。

八月九日には、母の兄が稲荷町の焼け跡地、元の処にバラックを建てて下さったので、戻り住むことが出来ました。

それまでは、母の妹の家におらしていただきましたが、僅かの期間でしたが、俗に云う嫁姑の苦しい思いで過し叔母の大変さに同情していました。八月十五日、昭和天皇のあの「御言葉」をききまし

たが、当時十三才で両親に黙って金沢行つて試験を受け予科練生に入り、「お国のために行きます。父上様、母上様には、生涯ご心配は、おかけしません」と挨拶した兄、その兄が特攻機を整備している時、B29の直撃を受けて戦死したとの不報を、当時、舞鶴港で海軍司令官をしていた母の弟が、八月二十九日に持つてきて下さったのです。

未だ父は戦地から家には戻っていない中でのこと、大声で泣き崩れる私達、その上、兄の命日が終戦の約一ヶ月前の七月十二日と聞いて、一層悲しみが増すと同時に、もの凄く憤りが、こみ上げてきました。

昭和天皇が早く戦いを止めるよう申されていたと聞き及んでいます、それを真摯におこなつていただければ、富山の夜空襲も、兄の戦死も無かつたと、残念！残念！でなりません。私と同じ悲しみを味わわれた方も沢山いらっしゃると思います。

太平洋戦争の悲劇は、絶対に！絶対に！あつてはならない！

穏やかに心安らゆく希み満ちて楽しく過ごせませすこと「平和」の日々をいつも感じられる日々を願っています。

「私たちの課題」

富山市立東部中学校三年 堀 葉月

二〇一五年に北陸新幹線が開通し、富山駅前も近代的でおしゃれな雰囲気になった。市街地も、新しい美術館が建ち、路面電車も走るようになり、一気に富山市内は、都会的になったと感じる。しかし、その反面、かつての有名店が閉店したり、商店街のにぎわいが見られなかったりといった現実も見られる。私は、今の富山市に、嬉しいような寂しいような気持ちを抱いている。富山市の将来が明るく、活気のあるものにするために、まず、私たちができることは何だろうか。

そこで、私たちができることは、富山の「よさ」を考えて、受け継いでいくことであると考える。まず、富山で働いていける「場」づくりから、始めなければならぬ。例えば、富山の「葉」のように、長い歴史を持った特産品を生かした産業などを、どんどん発展させていくとよいのではないか。ネット上で、ホームページを開設したり、図書館や博物館などの公共施設にポスターを掲示したりするなど、どのような人でも、伝わるような工夫を少しずつ初めてみてはどうだろうか。また、「白えびせんべい」のような、名物を生かした食べ物や販売したら、富山県民以外にも、観光客が興味をもち、お土産として地元を持ち帰ることもあると思う。富山県民が働くだけではなく、県外からも働きに来る人が増えると思う。富山の歴史や文化を守り、展開していくことができればよいと思う。

他県に働きに出た人も、富山に帰ってくることはある



城址公園内にある戦災復興記念像(天女の像)

中学生作文優秀賞

「これからのふるさと富山」

富山市立新庄中学校三年 松坂 結花

八月一日、毎年この日の夜、富山の人々は、夏の夜空をかざる大きな花火を見上げています。一九四五年八月一日の夜、富山大空襲が起きました。富山市は一瞬にして戦火にまみわれ、死者は二千人を超え、戦災面積は約千三百七十六万㎡にもなった大きな空襲でした。

この富山大空襲から約七十年以上経った今、北陸新幹線が開通するなど、富山は多くの発展をとげ、すばらしいまちになりました。しかし、その陰にはたくさんの人々の苦勞がありました。北陸新幹線の開通は、構想から約五十年もの歳月をかけてやっと実現されました。私たちは、そのことを決して忘れて生活していくのです。そうすれば自然と感謝の気持ちでいっぱいになります。今日まで住みやすいまちを目指して努力してくださった多くのみなさん、本当にありがとうございます。

私は以前、神奈川県に住んでおり、毎年お正月やお盆になると、富山の祖母の家に帰省していました。富山はとても遠かったけれど、広い空や雄大な立山連峰の眺めは、その時にしか見られない私にとって特別な眺めでした。また、祖母が富山の魚を使って作ってくれた手料理や豪快に食べたカニ、お米はとてもおいしくてよい思い出で、今で

も私の好物です。

このように、どこまでも連なる大きな立山連峰やおいしい水、お米、海の幸は富山にしかない「富山らしさ」です。富山のすばらしい自慢です。

この古くから受け継がれた富山のよいところ、長い歳月をかけ創り上げたものをこの先も大切に残していきたい、さらに発展させていくにはどのようにすればよいか、私なりに考えました。どれもただ発展しても「富山らしさ」だけではなくしてはならないと思います。ただ都会のように便利さだけを求めて近代的にしていくと、せつかくの「富山らしさ」が消えてしまいます。住みやすいまちにするために近代的にしつつも、富山らしいありのままの姿を残していくことが必要だと考えます。私たちにとつての発展とは、富山のよいところをのばすことです。

富山を内側からだけ見ても、見えないものがあると思います。広い視野をもち、外側からもう一度見つめ直すことで、富山のよいところがより見えてきて、富山だからこそのできることを発見できるのではないのでしょうか。

今の私たち中学生が富山を大きく発展させていくことは難しいかもしれませんが、一人一人が富山を愛する一富山県民です。富山について多くの知識を得て、様々な経験を重ね、よいところを共有、発信していくこと、自身が富山をもっと好きになること、それが今の私たちにできることです。

だろう。その時に、立山連峰や、富山湾を見て、「富山に帰ってきたんだなあ。」とほっとしてもらえたら、富山は心の寄り所として成り立っていると思う。一方で、道や溝などに、ゴミが落ちているといった、ルールを守らない人がいると、「富山に来たい。」と思うはずがない。また、他県、他国から来られた観光客に、富山駅などの公共施設が与える印象は大切である。「富山」の印象が、そこで変わってしまうことがないように、気持ちよく迎え入れる心構えをしておくことが必要である。

富山市のこれからの未来を変えていくのは私たちである。私たち自身に、富山を守る責任がある。まずは、自分が住んでいる地域の活動に積極的に参加したい。地域のよさを見付け、大切にしていける気持ちで養ってきたい。どんなに小さなことでも積み重ねていけば、明るい未来はやつてくるだろう。一人一人が富山で生活していることに感謝し、責任をもつて暮らす。そして、これから切り開いていく富山に、様々な、新しい風を吹かせていき、AMAZINGな富山を私たち自身が工夫して創り上げていかなければならない。

「平和を築くために」

富山市立橋原中学校三年 山崎 素輝

日々地球のどこかで、様々な争い事、戦争が起きています。戦争の恐ろしさ怖さをみなさんは知っていますか。僕は中学一年生の時に、戦争の恐ろしさを学びました。

学校で富山大空襲について語り部さんが話してくださる機会がありました。富山大空襲は、日本でも大きな空襲で、数千人の人が亡くなりました。信じられないくらいの大人数の人が亡くなった理由は、「赤い雨」と呼ばれるくらい、大量の焼夷弾が投下されたからです。これは、火が水鉄砲のように勢いよく噴き出す爆弾です。この頃は木で作られている家がほとんどなので、人だけでなく家も焼き尽くしたと聞きます。自分の家族を失い、町の家並が消えた絶望の中で僕は生きていける。だろうかと考えると胸が苦しくなります。

富山県が空襲に襲われたのには、理由があります。それは、産業、工業ともに優れた日本有数の町だった為です。戦争相手が狙う場所は、人が集まっている所、工業が進んでいる所、食料などがある所。それら条件に当てはまる場所が富山県だったそうです。工業を狙えば、戦機を作れなくなるし、食料がある所を狙えば、食料を戦場に送れなくなるというところが相手の作戦でした。そして、この美しい土地、富山は焼け

野原になつてしまいました。

僕は語り部さんの話を聞き終えた後、全身の力が抜けて、悲しくつらい気持ちになりました。しかし、その気持ちと同時に「今、どこかで戦争が起きて悲しく、つらい気持ちになっている人がいたら助けてあげたい」という気持ちも込みあげてきました。今、戦争を終わらせなければいけないのです。そのために、一人でも多く、戦争の怖さ、人々が持っている悲しさをやつらさを知る人を一人また一人と増やしていかなければいけないのではないのでしょうか。この世界の戦争を終えるために、そしてこの世界の本当の平和を迎えるために、できることから始めたいと思います。でも、本当にそれでいいのか、思うだけでいいのかと思います。毎年僕たちは人の命、存在を大切に思う人権集会を開いていますが、去年はじめて「榆中スマイル宣言」をつくり実際に行動することについて全校生徒三十三名、人々が考えました。学校という小さな世界について考えるだけでも難しいことだと思いましたが、世界の平和はあまりにも大きすぎる問題です。でもその大きさに負けて、一歩も踏みださないとはいけません。僕たちはユネスコスクールとして、「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」に地域の方と参加しています。小さなことかもしれませんが、平和な世界を築く第一歩を踏みだしていきます。この道は世界に続いていると信じて。

式典



1. 富山市の紹介映像

2. 国歌斉唱

3. 黙とう

4. あいさつ

富山市長 森 雅志

5. 中学生作文最優秀賞発表

富山市立東部中学校3年 「私たちの課題」

堀 葉月

6. 戦災体験談

作 / 富山市上飯野新町
朗読 / 声のライブラリー友の会

大畑 クニ子
野沢 祐子

7. 代表献花及び一般献花

演奏 / レーベン弦楽四重奏団
第1ヴァイオリン
第2ヴァイオリン
ヴィオラ
チェロ

渋谷 優花
新井 紗央理
嶋 志保子
富田 祥